

| | |
|------|---|
| 件名 | 障がい福祉センター幼児発達支援室ひよこの千住分室整備について |
| 所管部課 | 福祉部 障がい福祉推進室 障がい福祉センター |
| 内容 | <p>増加する外来個別指導の利用児(発達に遅れや偏りがある就学前の幼児のうち、比較的軽度の児)への支援拡充のため、千住ひまわり作業所(千住仲町24-2)2階に幼児発達支援室ひよこの千住分室を整備する。</p> <p>については、千住分室の事業内容や今後のスケジュール等について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 障がい福祉センター(あしすと)の事業について 資料1-1参照</p> <p>2 幼児発達支援室ひよこの業務</p> <p>(1) 集団通所指導 (2) 外来個別指導* → 本業務のみ千住分室で実施 (3) 親子グループ指導 (4) 保育所等訪問支援</p> <p>*外来個別指導とは、発達に課題のある就学前の幼児について、心理士や言語聴覚士(ST)が1対1で定期的に療育指導を行うもの</p> <p>3 千住分室開設時期等</p> <p>(1) 開設時期 令和4年4月 (2) 開室日数 週4日 月曜日～木曜日 ただし当初は週3日開室する。 (3) 開室時間 午前9時から午後5時まで (4) 開設期間 令和7年4月に開設予定の新児童発達支援センター(足立一丁目13番 旧千寿第五小学校用地)の運営状況をみて判断する。</p> <p>4 外来個別指導のあるべき姿と現状、整備による改善点</p> <p>(1) あるべき姿 一人ひとりの状況を考慮したうえで、月1回程度の指導が望ましい。</p> <p>(2) 現状 幼児発達支援室ひよこでは、年間約1,000名に対応している。指導回数は年長児が月1回または隔月、年中児以下では2～3ヵ月に1回程度実施。相談室の確保が困難なため、年中以下の利用児への十分な指導が実施できていない。</p> <p>(3) 整備による改善点 千住分室の開室により相談室が増えるため、すべての利用児について、希望があれば月1回の指導が可能となる想定。</p> |

5 千住分室の設備及び人員態勢

(1) 分室設備

千住ひまわり作業所 2階に相談室 4室・事務室・待合室等を整備

(2) 人員態勢


一日あたり常勤心理職 1名、会計年度任用職員（心理・S T）
3名で対応

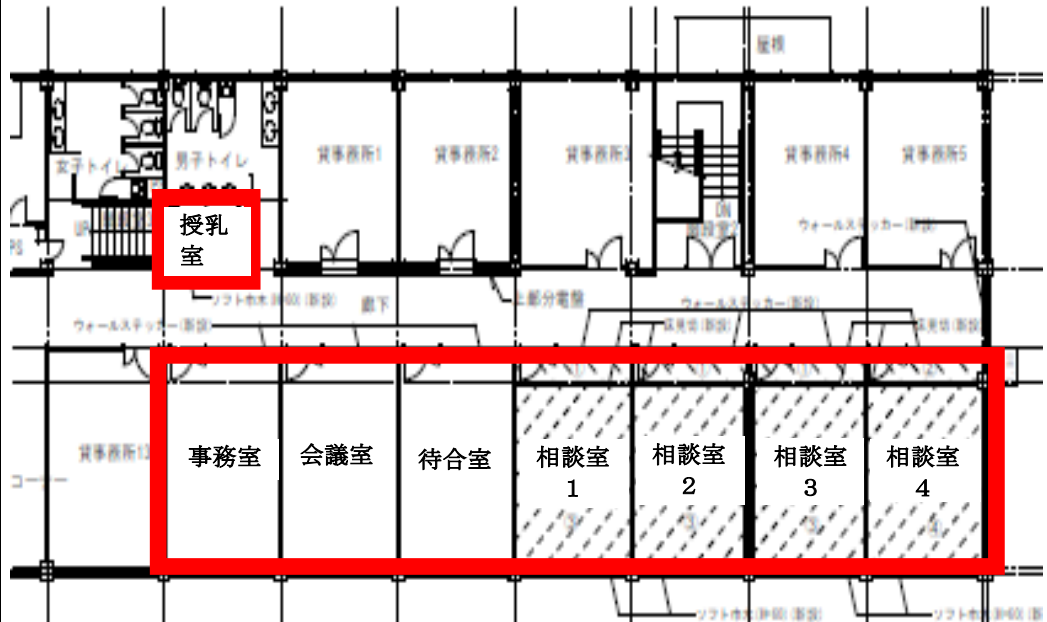
6 千住分室に係る今後のスケジュール（予定）

令和 4 年 2～3 月 物品搬入

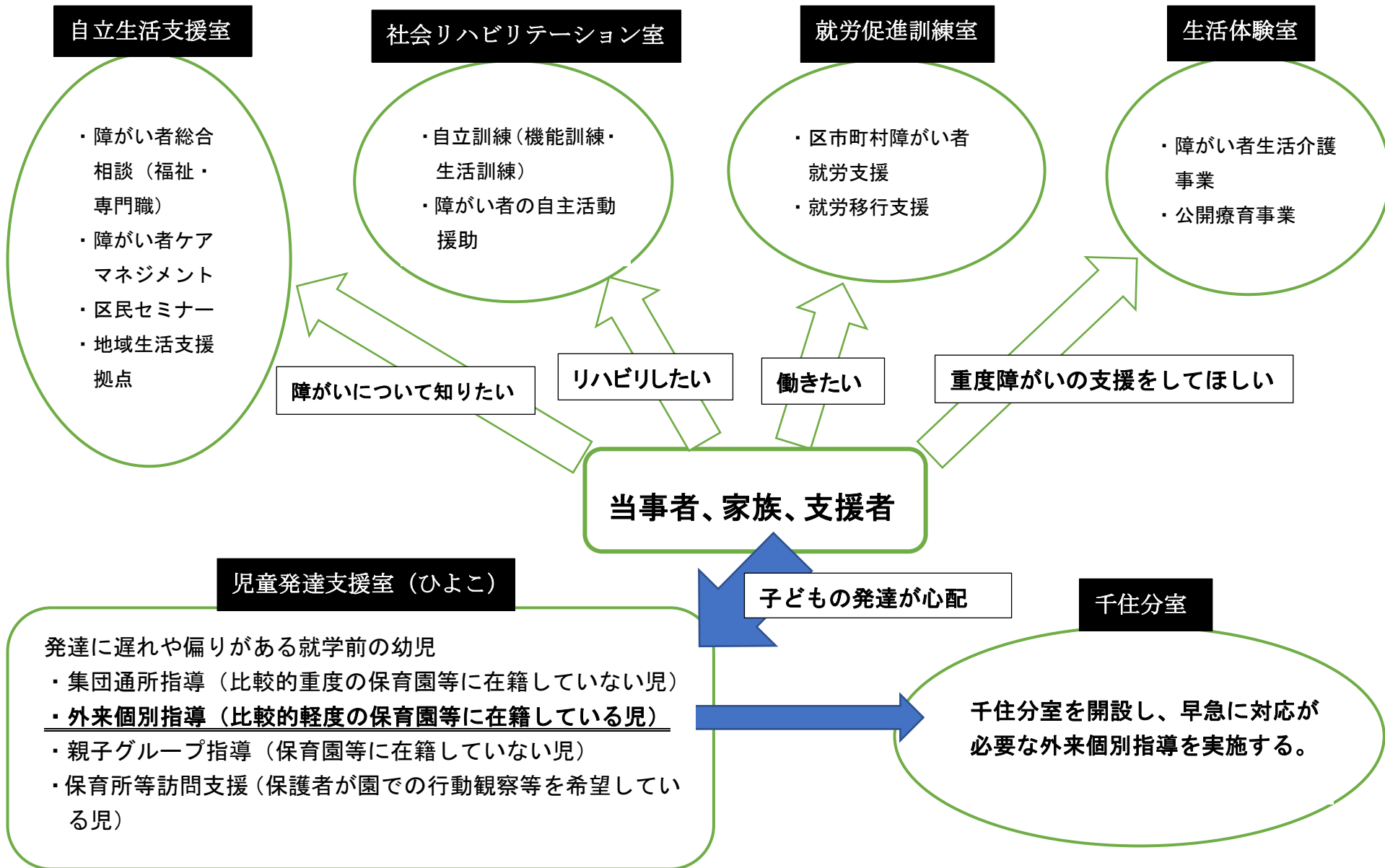
令和 4 年 4 月 千住分室開設

（参考）千住ひまわり作業所 2階東側

※  太枠内が利用部分



障がい福祉センター あしすとの業務イメージ



| | |
|------|---|
| 件名 | 足立区における高齢者の孤立死の現状について |
| 所管部課 | 絆づくり担当部 絆づくり担当課 |
| 内容 | <p>足立区における高齢者の孤立死の現状について、東京都監察医務院のデータをもとに分析を行ったので報告する。</p> <p>※本報告での孤立死の定義は「<u>単身者が自宅で死亡した場合</u>」とする。</p> <p>1 高齢者の孤立死の状況（平成28年～令和2年） 別添資料2-1 「足立区の高齢者孤立死データ分析結果」参照</p> <p>2 高齢者の孤立死の主な傾向</p> <p>(1) 孤立死の数は増加傾向で、孤立死の増加率は、高齢者人口の増加率を上回る。 (2) 時期別では、夏季と冬季に増加する傾向。 (3) 夏季は最高気温との関連性が見られ、35℃以上になると、孤立死件数が2.9倍。 (4) 冬季は最高気温と最低気温の気温差が12℃以上になると、孤立死件数が1.6倍。 (5) 性別では男性が女性の2.8倍、発見に要する日数も男性の方が2倍。</p> <p>3 高齢者の孤立死の傾向からの主な分析</p> <p>(1) 孤立死件数が増加する夏季・冬季は、最高気温・気温差との関連性が顕著なため、対策を検討し、周知を行うことで件数を減少できる可能性がある。 (2) 孤立死件数及び発見までに要した平均日数は女性に比べ、男性が大幅に上回り、男女で発生しやすい年齢層があることも判明したため、ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。</p> <p>4 今後の方針</p> <p>(1) 高齢者の相談窓口である地域包括支援センター及び地域の見守りを行っている関係機関に情報提供し、孤立死が増加する夏季や冬季に重点的に地域の見守りを依頼していく。 (2) 孤立死の現状について、絆のあんしん連絡会等の関係機関の会合で本分析を活用してもらうことにより、区民への周知・啓発を進めていく。 特に孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る。 (3) コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和3年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、令和4年度も引き続き分析を進める。 (4) 関係所管と情報共有を進め、より効果的な孤立死対策について検討していく。</p> |



足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

データ出典：東京都監察医務院提供データ(平成28年～令和2年)

当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

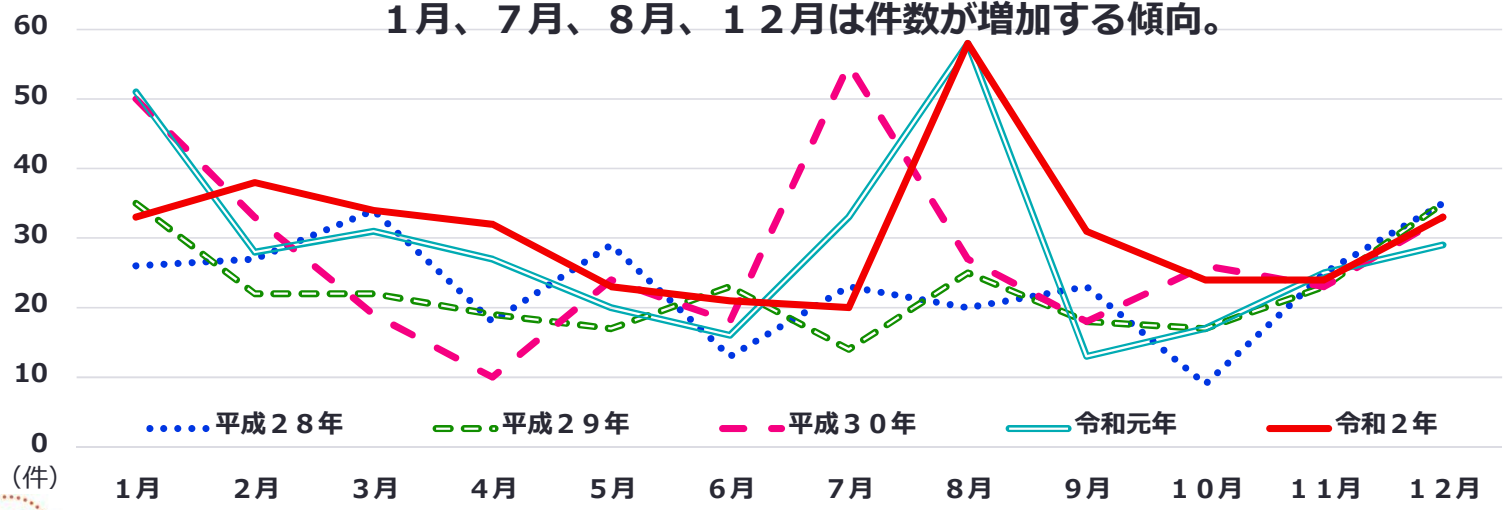
■■■■ 目次 ■■■■

| | |
|---------------------------------|-------|
| 1 死亡時期別の集計結果 | |
| (1) 足立区における高齢者孤立死件数(月別) | (P3) |
| (2) 足立区における夏季、冬季の高齢者孤立死件数 | (P4) |
| (3) 熱中症死亡者の状況(特別区内全域、世帯構成・年齢不問) | (P5) |
| 2 性別による集計結果 | (P6) |
| 3 死亡時年齢による集計結果 | (P7) |
| 4 コロナ禍における高齢者孤立死 | (P8) |
| 5 集計結果・分析結果 | (P9) |
| 6 今後の取り組み | (P10) |

1-(1) 月別高齢者孤立死件数

| 年月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 高齢者人口 (1月1日現在) | 高齢者増加率 (対前年) | 高齢者孤立死増加率 (対前年) |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------------------|-----------------|--------------------|
| 平成28年 | 26 | 27 | 34 | 18 | 29 | 13 | 23 | 20 | 23 | 9 | 25 | 35 | 282 | 165,910人 | +1.9% | |
| 平成29年 | 35 | 22 | 22 | 19 | 17 | 23 | 14 | 25 | 18 | 17 | 23 | 35 | 270 | 168,323人 | +1.5% | -3.6% |
| 平成30年 | 50 | 33 | 19 | 10 | 24 | 18 | 55 | 27 | 18 | 26 | 23 | 33 | 336 | 169,994人 | +1.0% | +24.4% |
| 令和元年 | 51 | 28 | 31 | 27 | 20 | 16 | 33 | 58 | 13 | 17 | 25 | 29 | 348 | 170,890人 | +0.5% | +3.6% |
| 令和2年 | 33 | 38 | 34 | 32 | 23 | 21 | 20 | 58 | 31 | 24 | 24 | 33 | 371 | 171,378人 | +0.3% | +6.6% |
| 合計 | 195 | 148 | 140 | 106 | 113 | 91 | 145 | 188 | 103 | 93 | 120 | 165 | 1607 | | | |

1月、7月、8月、12月は件数が増加する傾向。



足立区における高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を大きく上回る。



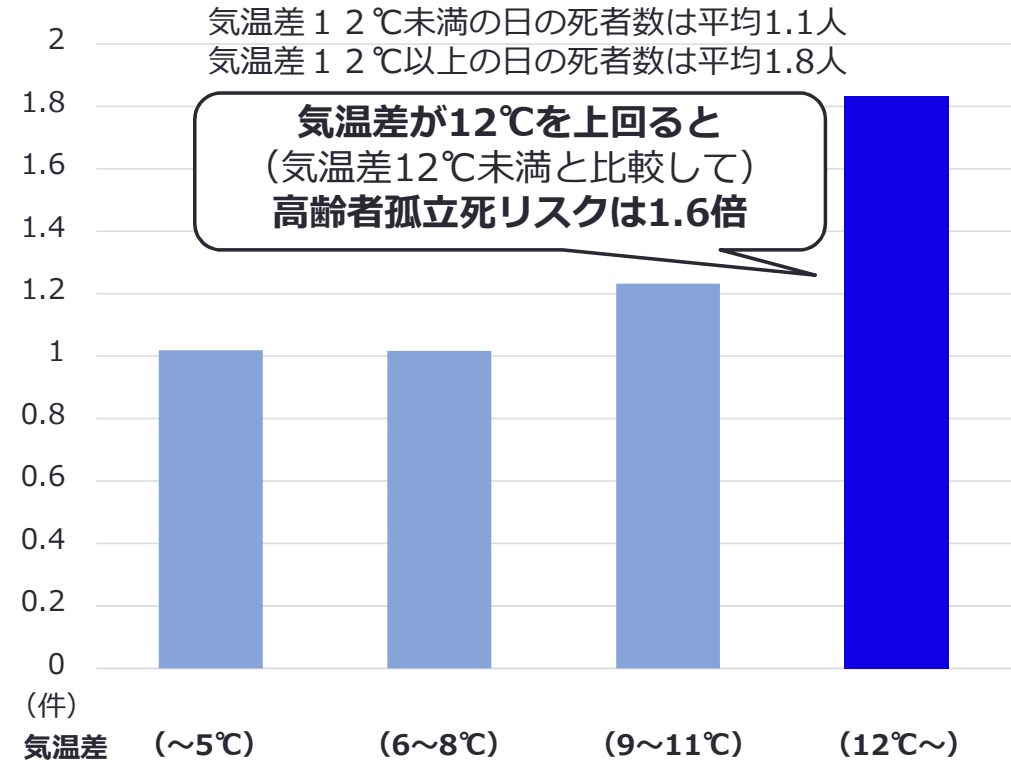
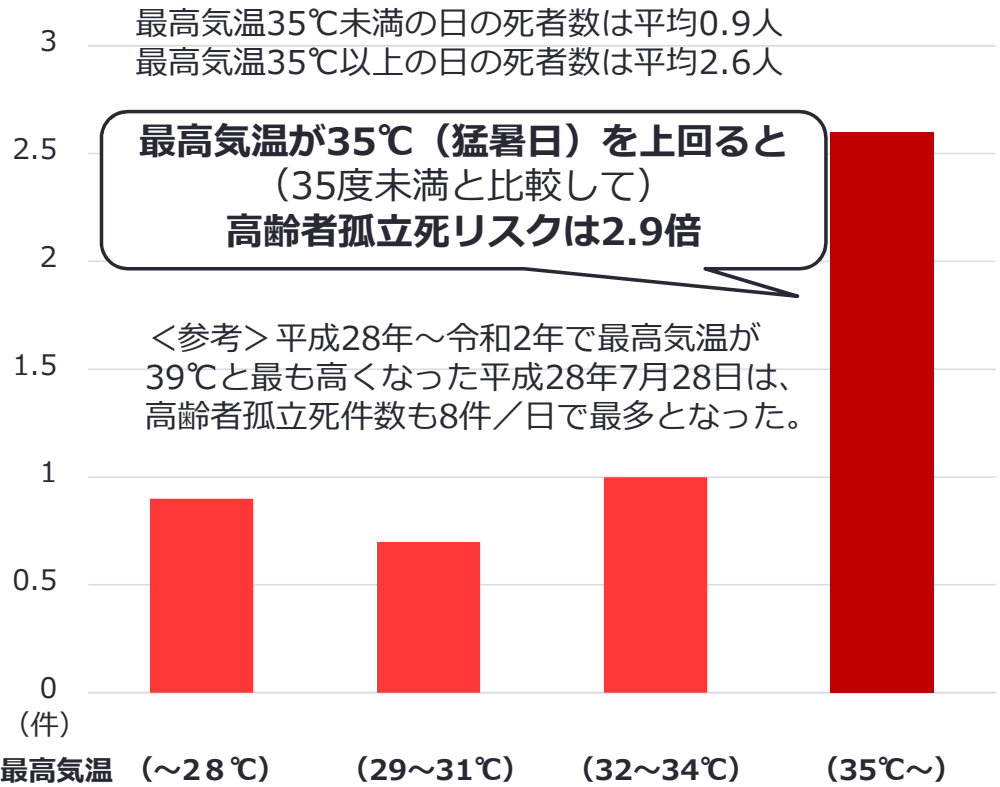
1-(2) 夏季(7月8月)、冬季(1月、12月)の高齢者孤立死件数

夏季(7月・8月) 最高気温別

冬季(1月・12月) 最高気温別(最高気温-最低気温)

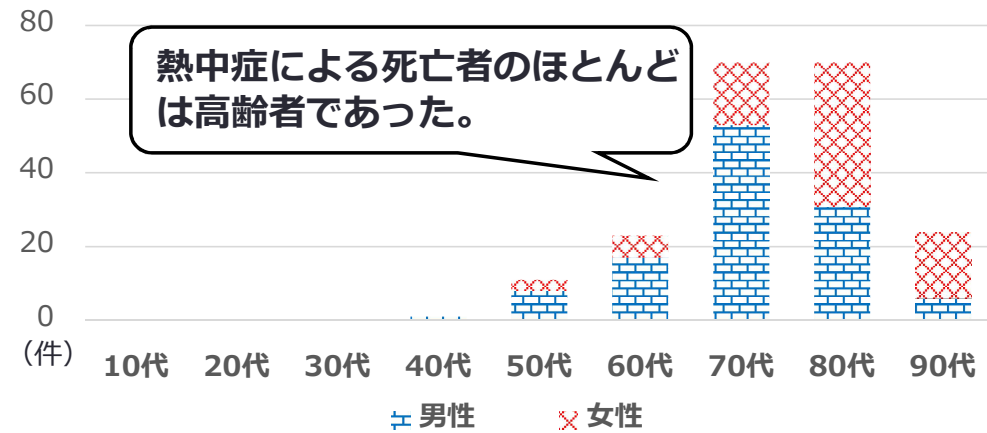
夏季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と関連性**が見られる。

冬季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と最低気温の気温差**に関連性が見られる。

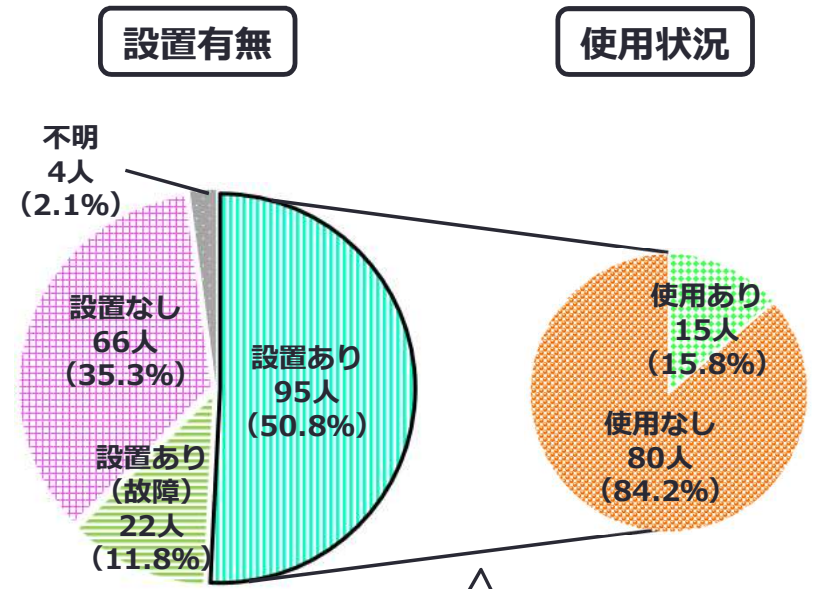


1-(3) 令和2年6~9月の熱中症死亡者の状況 (特別区内全域、世帯構成・年齢不問)

年齢、男女別 熱中症死亡者数



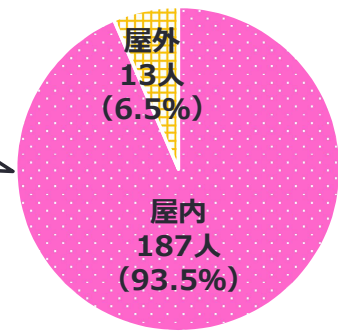
熱中症死亡者（屋内）のエアコン設置有無および使用状況



熱中症で死亡した人のうち、84.2%はエアコンが使用できる状況であったが使用していなかった。

死亡場所（屋内外）の割合

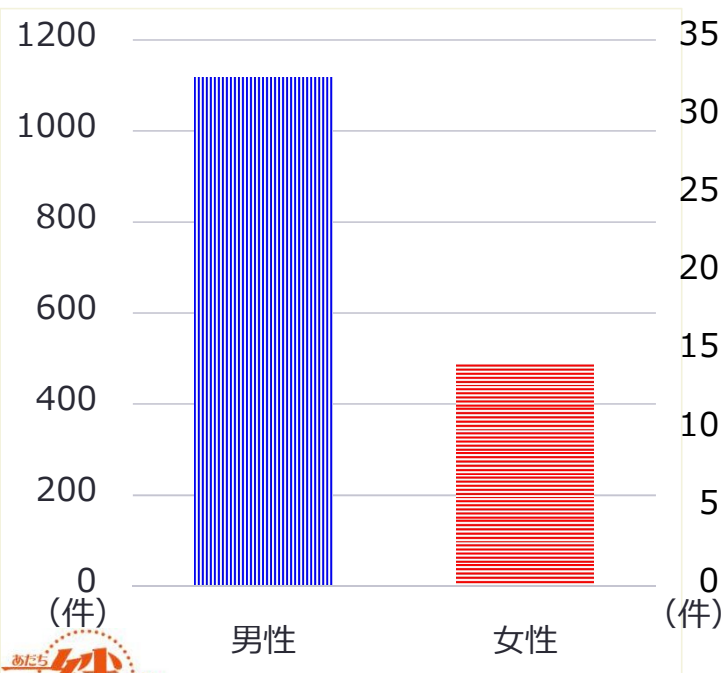
熱中症による死亡のほとんどは屋内で発生している。



2 高齢者孤立死状況（性別）

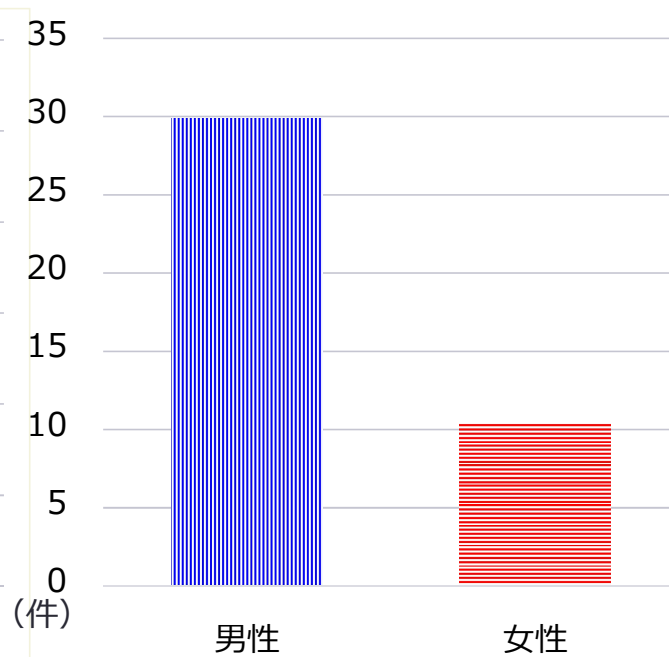
●性別ごとの高齢者孤立死件数
（平成28年～令和2年の合計）

男性1,118件 女性489件
男性の方が2.3倍多い



●性別ごとの高齢者1万人当たりの
高齢者孤立死件（平成28年～令和2年の合計）

男性29.9件 女性10.4件
男性の方が2.9倍多い

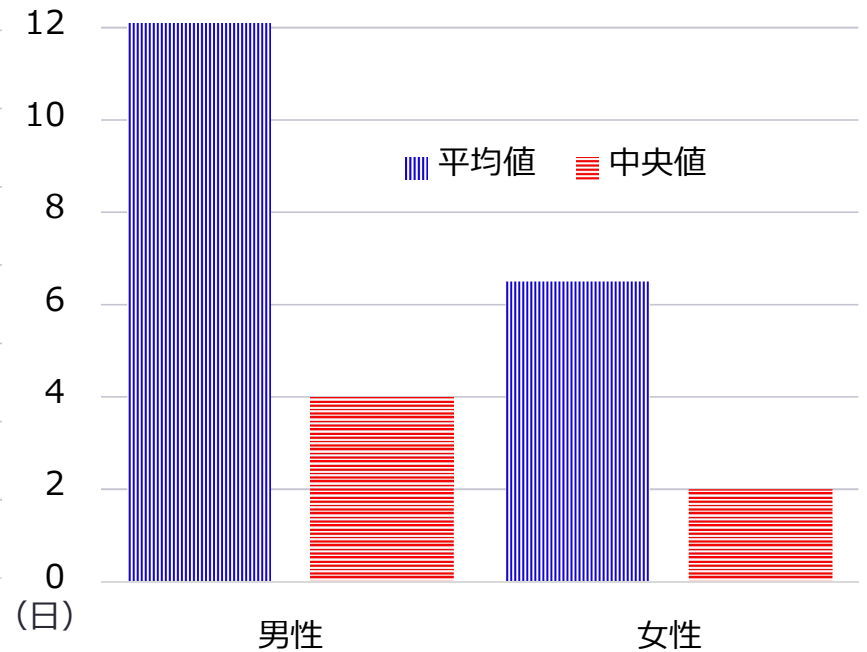


●性別ごとの死後経過日数（平成28年～令和2年）

【平均値】男性12.1日 女性6.5日

【中央値】男性4日 女性2日

※中央値とは値を昇（降）順に並べたときに中央の順位にくる値
いずれも男性の方が2倍程度の期間を要している。
また、30日以上経過は約89%が男性であった。

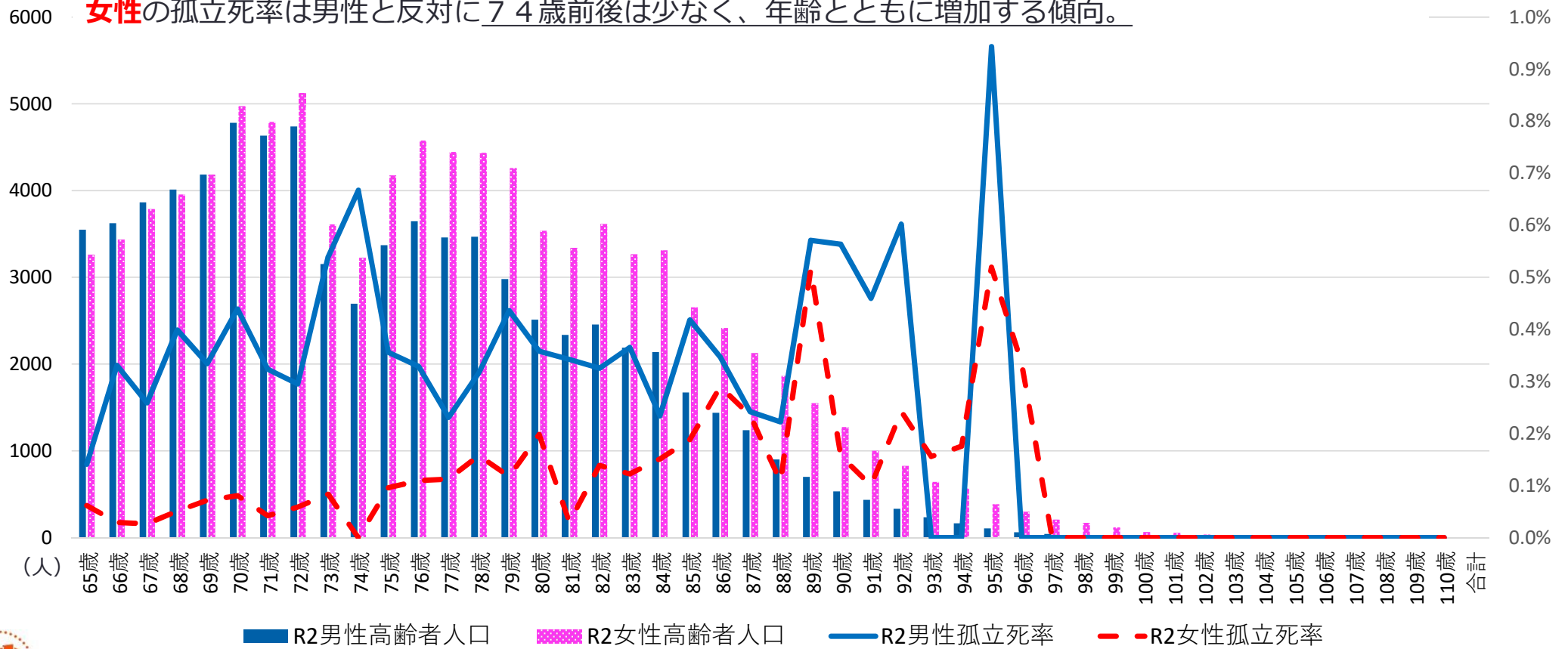


3 高齢者孤立死状況(死亡時年齢別)【令和2年】

※孤立死率 = 孤立死件数 ÷ 高齢者人口
(いずれも男女別の数値で計算)

男性の孤立死率は74歳前後で最も高くなる。

女性の孤立死率は男性と反対に74歳前後は少なく、年齢とともに増加する傾向。

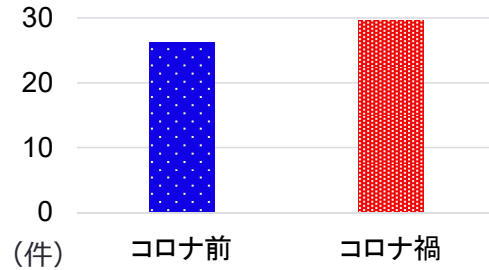


4 高齢者孤立死状況（コロナ禍における変化）

死亡日にて、平成28年1月～令和2年3月を**コロナ前**、令和2年4月～12月を**コロナ禍**と定義する。

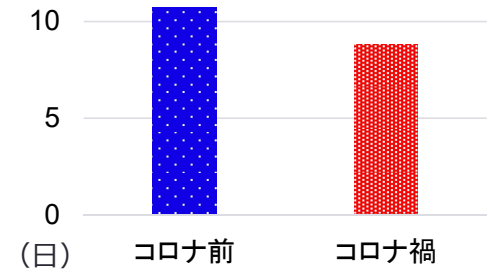
●発生件数（一か月当たりの平均）

コロナ前 26.3件
 コロナ禍 29.6件
 →13%増加



●死後経過平均日数

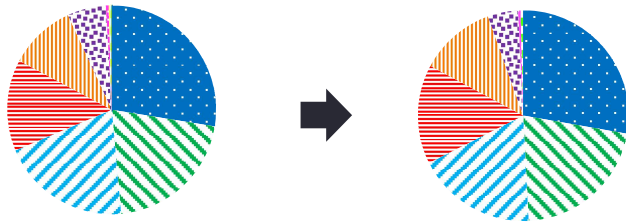
コロナ前 10.7日
 コロナ禍 8.8日
 →17%減少



●発見者 →特段の変化なし

コロナ前

コロナ禍



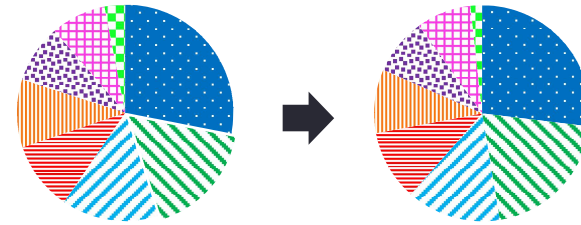
- 家族
- 保健・福祉関係者
- 管理人
- 通行人

- 隣人
- 知人
- 配達人
- 警察官

●発見の経緯 →特段の変化なし

コロナ前

コロナ禍



- 日常生活中
- 最近、姿を見かけない
- 電話応答なし
- 偶然の目撃
- 発見の経緯

- 配達物の停滞
- 異臭
- 無断欠勤・契約不履行
- 不審音・電気機器などの点けっ放し

5 集計結果・分析結果

集計結果

分析結果

| | 集計結果 | 分析結果 |
|------|--|--|
| 全体 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者孤立死件数は年々増加傾向。足立区における高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を上回る。 | |
| 時期別 | <ul style="list-style-type: none"> 冬季（12月・1月）、夏季（7月・8月）は高齢者孤立死件数が増加する傾向がある。 夏季（7月・8月）の高齢者孤立死件数は最高気温と関連性が見られ、最高気温が35℃（猛暑日）を上回ると、高齢者孤立死件数が2.9倍になる。 冬季（12月・1月）の高齢者孤立死件数は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られ、気温差が12℃を上回ると、高齢者孤立死件数が1.6倍になる。 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者孤立死件数が増加する夏季・冬季は、最高気温・気温差との関連性が顕著なため、今後、区としてできる対策を検討し、周知することで件数を減少できる可能性がある。 |
| 男女別 | <ul style="list-style-type: none"> 性別ごとの高齢者1万人当たりの高齢者孤立死件数は女性に比べ男性は2.8倍多い。 発見までに要した平均経過日数には、女性に比べ男性は2倍の期間を要している。また、30日以上経過していたケースは89%が男性だった。 男女・年齢別の孤立死発生率は男女でピーク年齢、傾向が異なった。男性は74歳が最も高い。女性は74歳前後が少なく、年齢とともに増加する傾向（令和2年）。 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者1万人当たりの高齢者孤立死件数、発見までに要した平均結果日数は女性に比べ、男性が大幅に上回った。また男女で発生しやすい年齢層があることも分かったため、ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。 |
| コロナ禍 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ前と比べ、高齢者孤立死発生件数はコロナ禍で13%増加した。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍では発生件数の増加以外は特段大きな変化はなかった。今後（令和4年度以降）もコロナ禍における高齢者孤立死データ分析を継続する。 |



6 今後の取り組み

- ア 高齢者の相談窓口である地域包括支援センター及び地域の見守りを行っている関係機関に情報提供し、**孤立死が増加する夏季や冬季に重点的に地域の見守りを依頼**していく。
- イ 孤立死の現状について、絆のあんしんネットワーク連絡会等の関係機関の会合で本分析を活用してもらうことにより、**区民への周知・啓発を進めていく。特に**孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る。****
- ウ コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和3年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、**令和4年度も引き続き分析を進める。**
- エ 環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築安全課（浴室暖房設置工事費助成）などの**関係所管と情報共有を進め、より効果的な孤立死対策について検討**していく。